

写真1 オヅィ橋 (357号線)

下流側左岸、新橋建設予定地から既設橋をのぞむ。既設橋は橋長146m、幅員3.7mで、橋梁形式は15連のRC単純桁橋である。

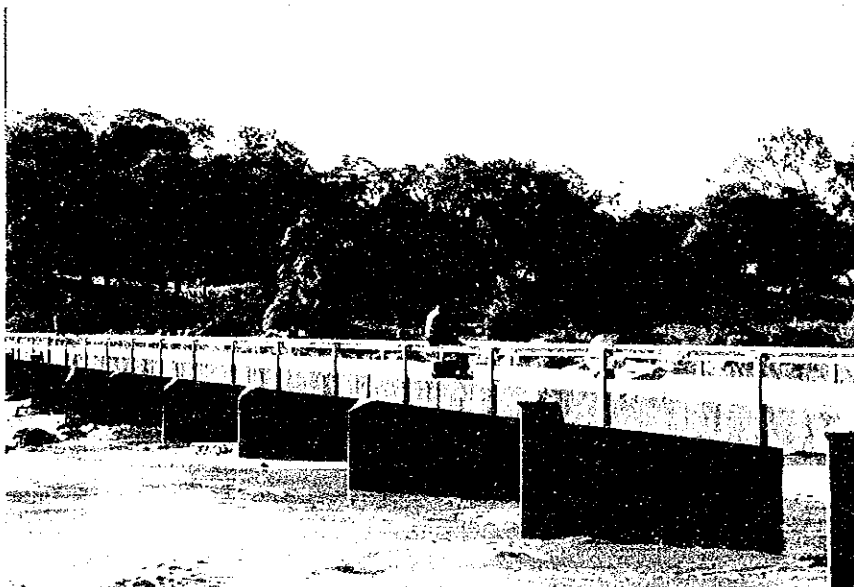


写真2 オヅィ橋 (357号線)

既設橋を下流左岸側より見る。橋梁進入部に警告板が掲示されており、(1) 走行速度 16 km/h、(2) ガードレール以上水位があるときは通行不可と書かれている。

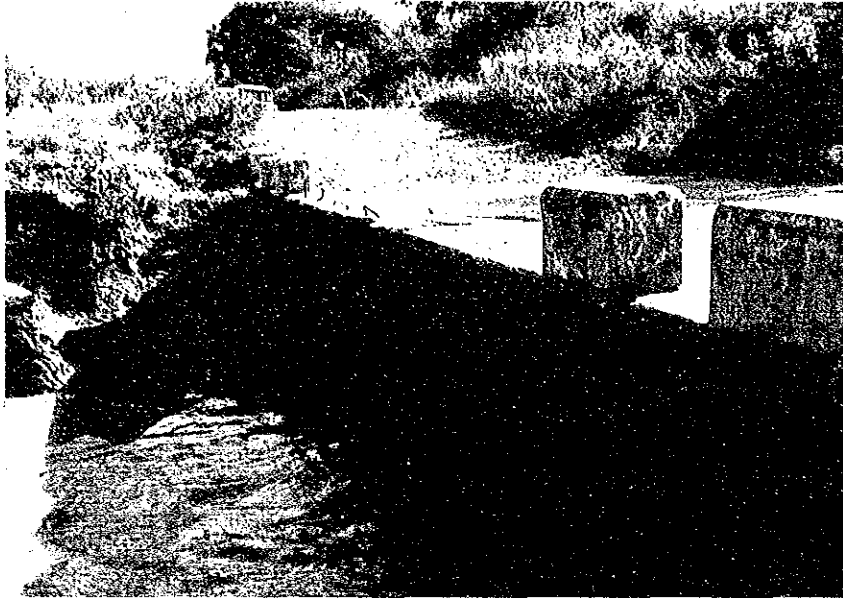


写真3 ウングェ橋 (956号線)

既設橋上流側より側面を見る。RC床板と重力式橋台の組み合わせで、開口部の幅が3.1mと上下流の河川幅より狭く、狭窄部を形成している。乾季にはウングェ川は涸川となる。



写真4 956号線

956号線の道路状況を示す。現況道路は旧来の土道から線形改良も含めて道路幅8mの砂利道に整備されている。



写真5 デヴレI橋 (344号線)

既設橋を上流左岸側より見る。橋長 101 m、全幅 4.0 m である。



写真6 デヴレI橋 (344号線)

既設橋を下流左岸側より見る。上掲写真は雨季直後の平成5年3月に撮影したもので、流水が見られるが、乾季には涸川となる。半割りパイプによる開口部の半数弱は、流木・堆積土砂等により閉塞されていた。

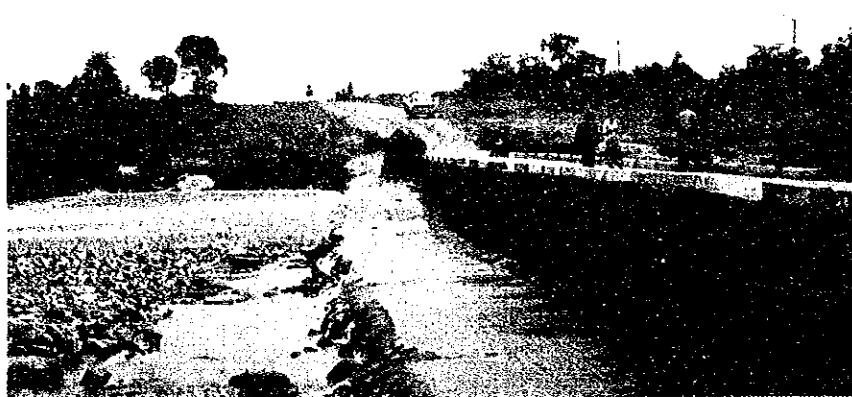


写真7 ソテ橋 (344号線)

下流側側面を左岸より見る。国国道局による渡河構造物の定義に照らせばアーチ・コウズウェイに相当する。



写真8 ソテ橋 (344号線)

既設橋を右岸 (グトゥ側) より見る。橋長 89 m、全幅 4.3 m、有効幅員 3.7 m である。



写真9 ペンベジ橋 (344号線)

既設橋梁の上流側全景。構造はRCと石積工の組み合わせによる、パイプ・ドリフトである。橋長53m、全幅8.6mある。



写真10 ペンベジ橋 (344号線)

既設橋梁の下流側側面を見る。平成5年3月に実施した現地調査の際、同行した国道局地方事務所のスタッフから同橋が1月末の洪水で流出し、その後3週間ほどで再建したとの説明を受けた。

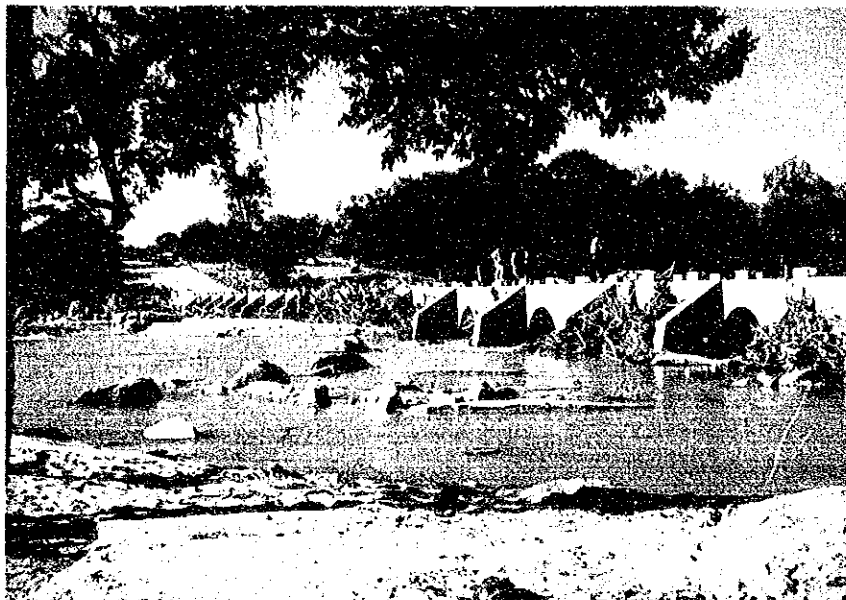


写真 11 デヴレⅡ橋 (359号線)

既設橋梁を上流側右岸より見る。上流側には支え壁が設置されており、洪水時に水制工および防護工として機能すると判断される。橋長は 170 m、全幅 4.2 m ある。

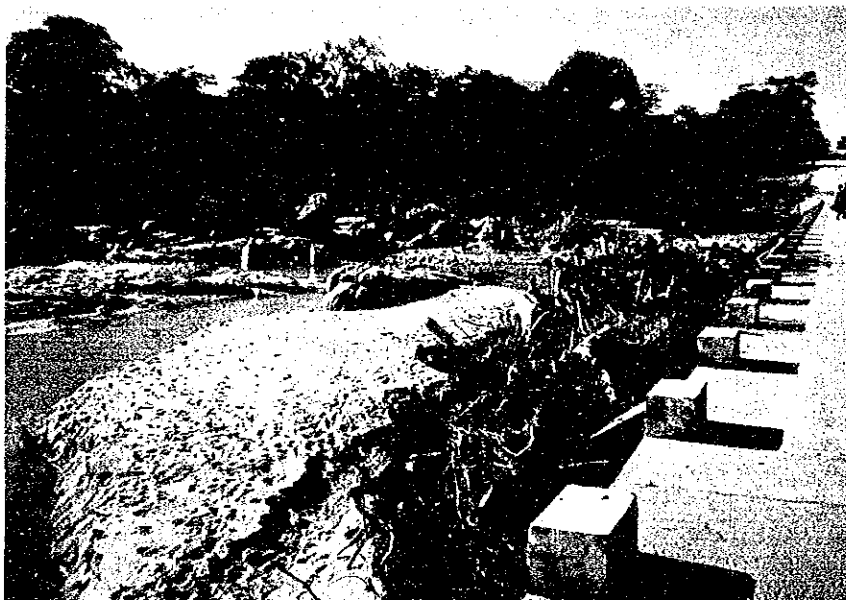


写真 12 デヴレⅡ橋 (359号線)

平成 5 年 3 月に実施した現地調査の際には上の写真に見られるように、前月 (2 月) にあった洪水による流木、堆積土砂が多く、開口部を閉塞していた。

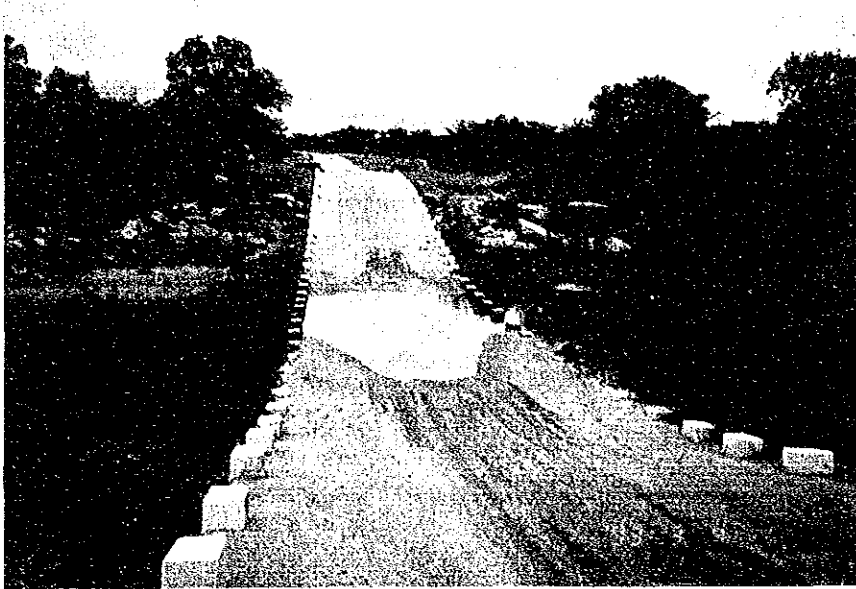


写真 13 ナタ橋 (759 号線)

既設ナタ橋を南西 (プラトウ側) より見る。構造は河道にそって幅 5.5 m でコンクリートを打設した、典型的なドリフトである。コンクリート打設部延長は 100 m。ナタ川は乾季には涸川となる。



写真 14 ナタ橋 (759 号線)

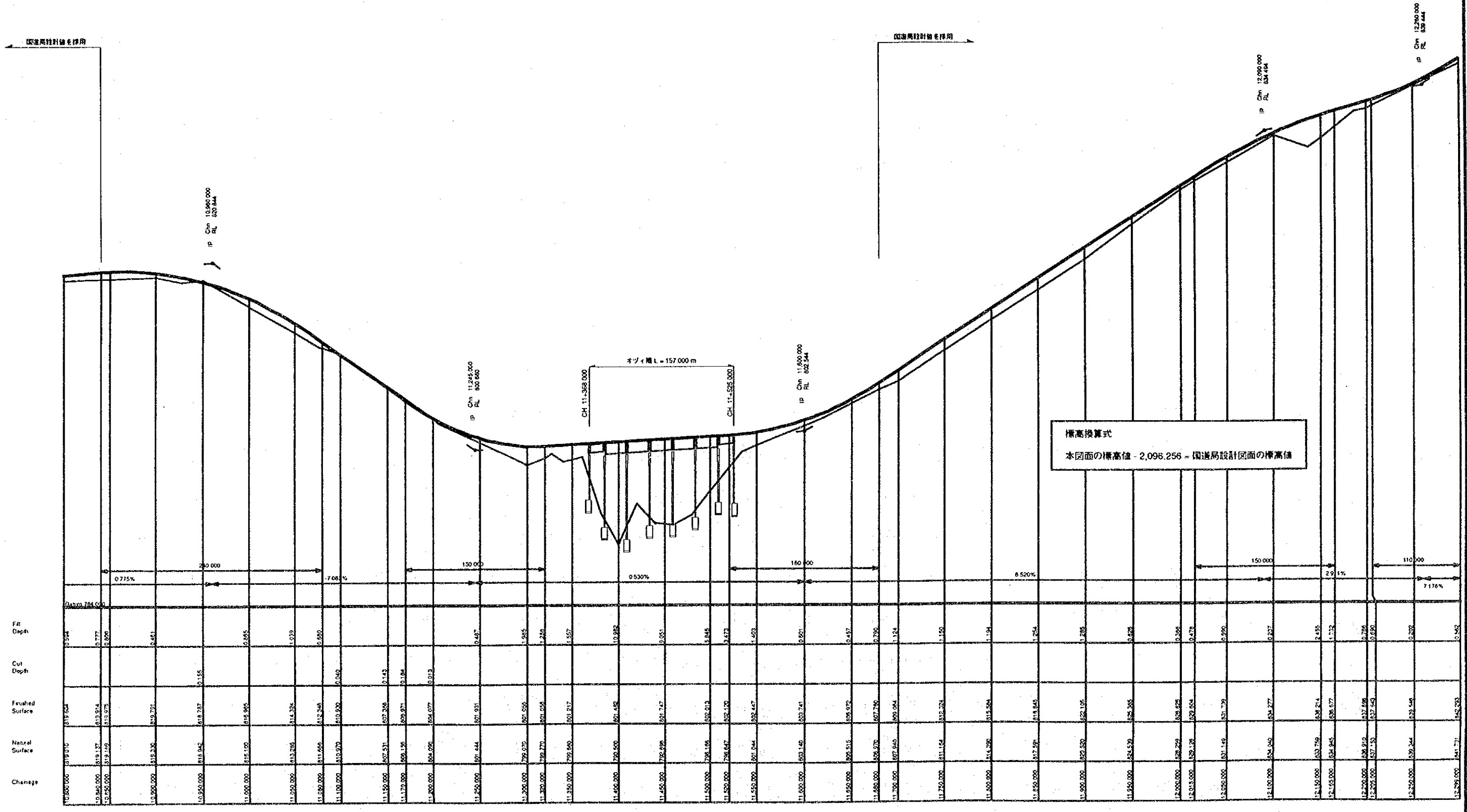
ナタ橋方向を北東 (サマニ側) よりのぞむ。道路縦断線形は河道なりに凹部を形成している。聞き取りによれば、兩岸の高さ (遠方に見える車両が位置する高さ) は、洪水位よりも高い。

添付資料 7 取付道路縦断図



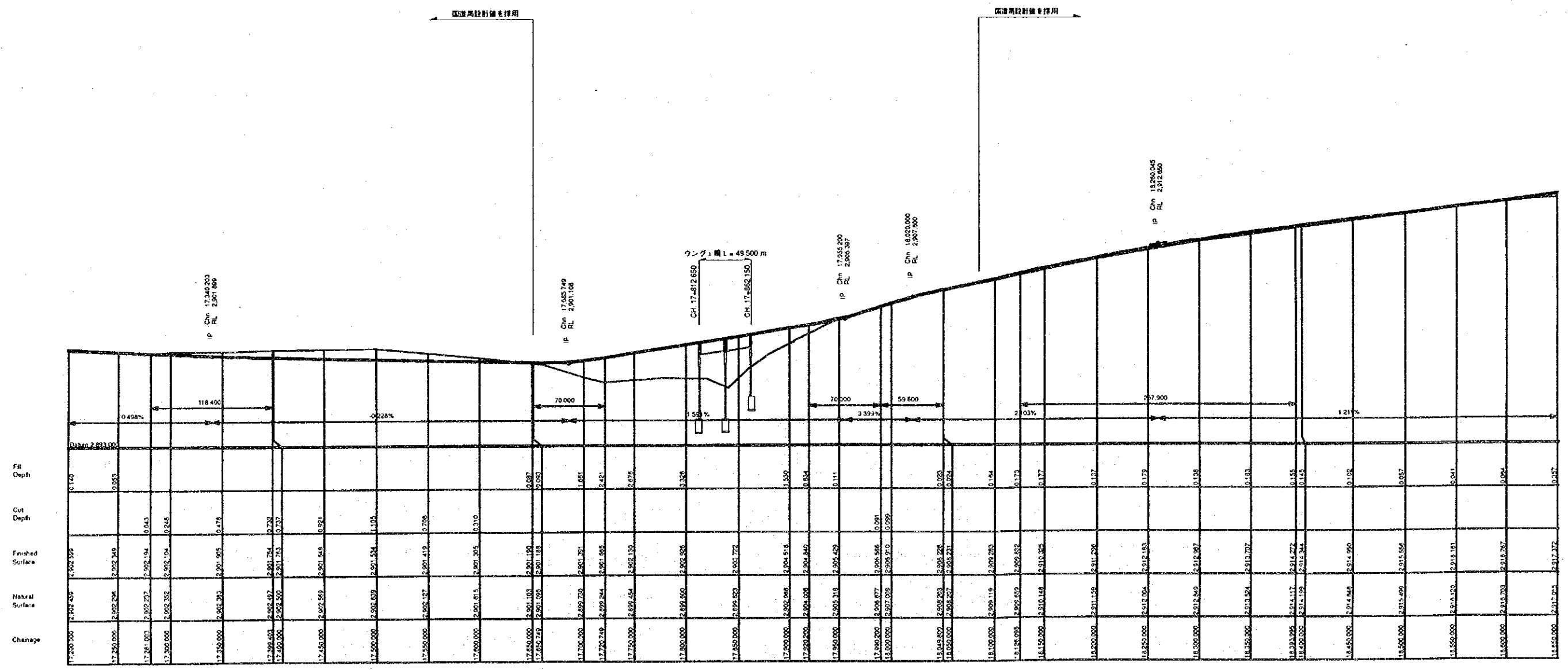




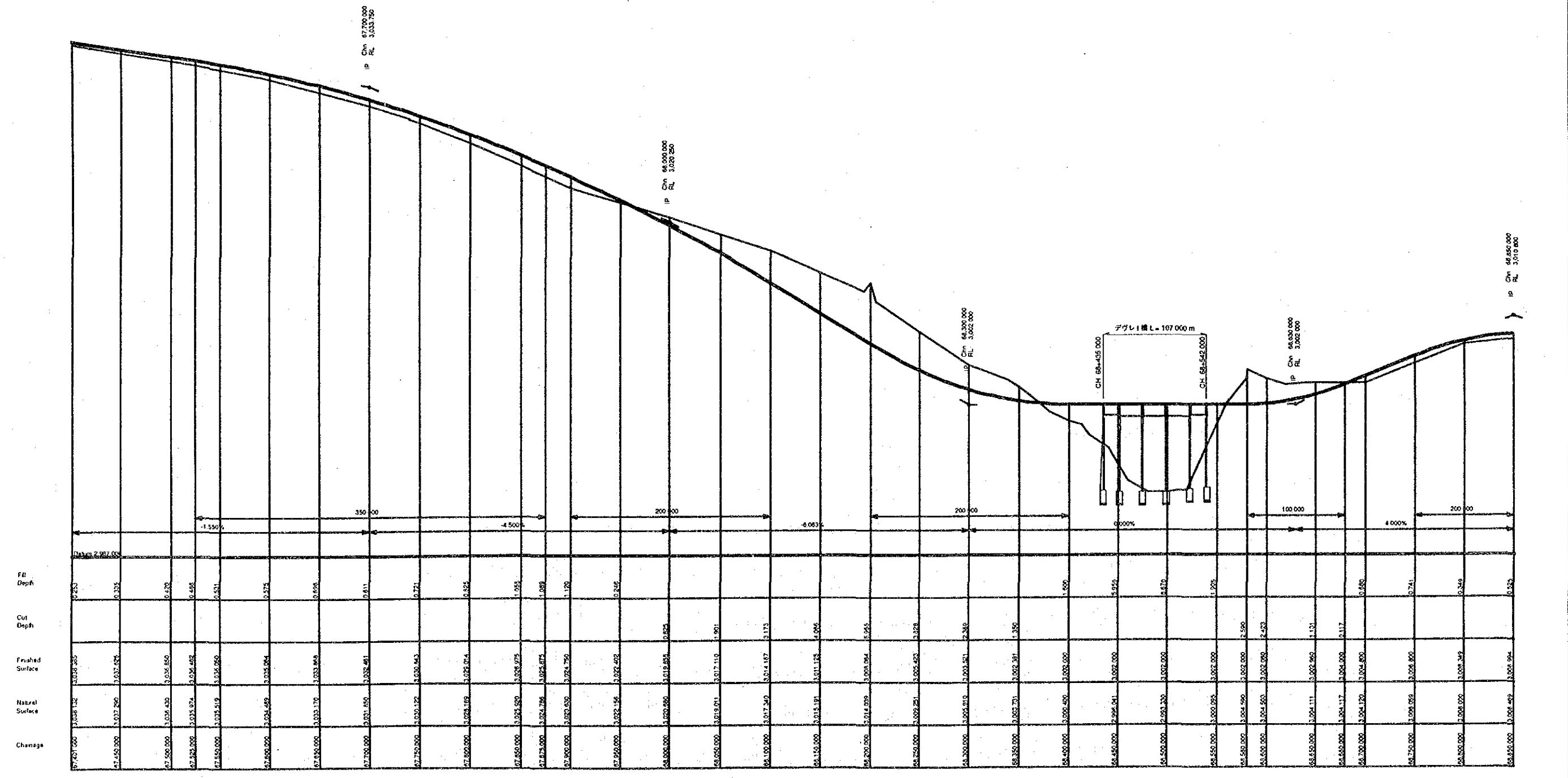


標高換算式  
本図面の標高値 - 2,096.256 = 国道局設計図面の標高値



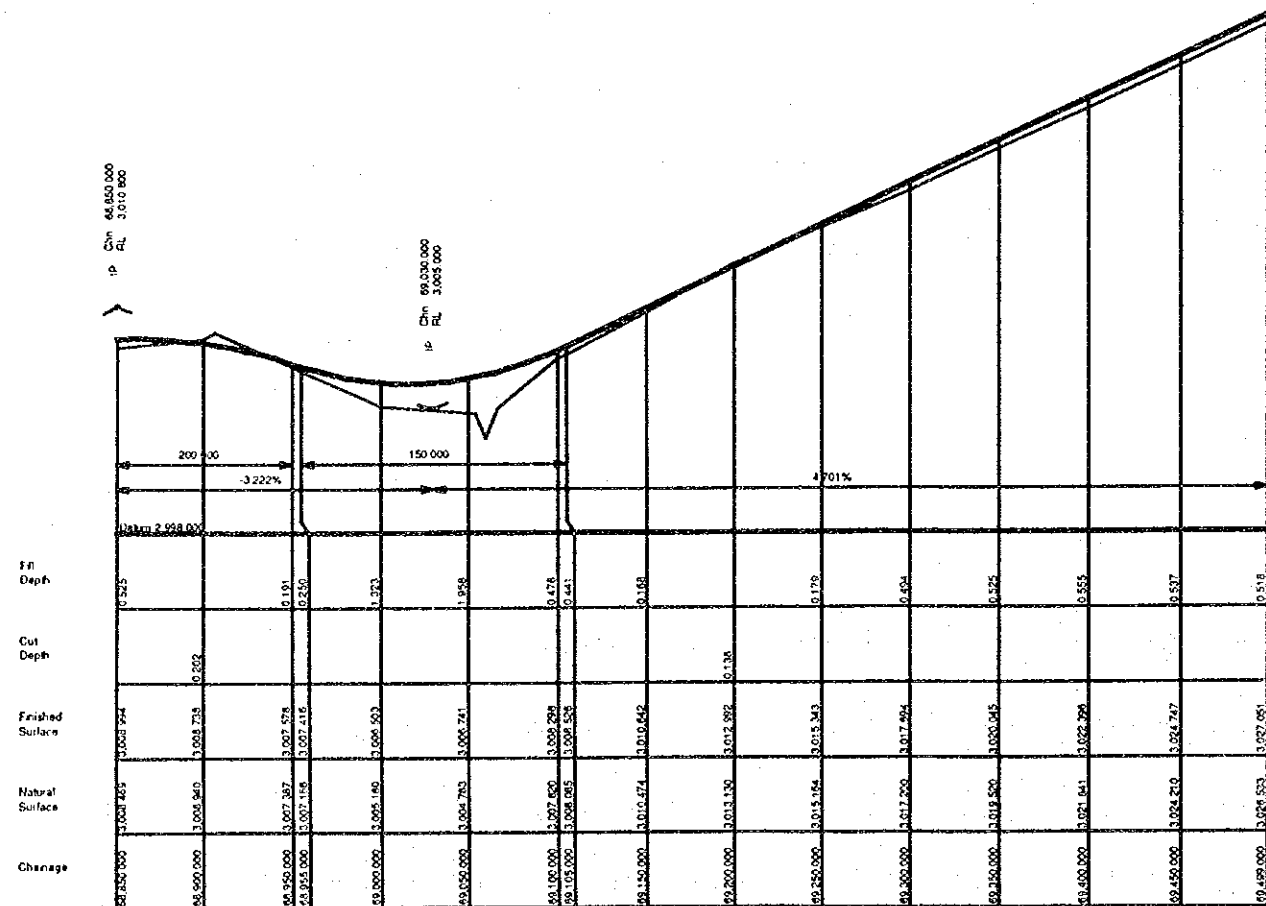








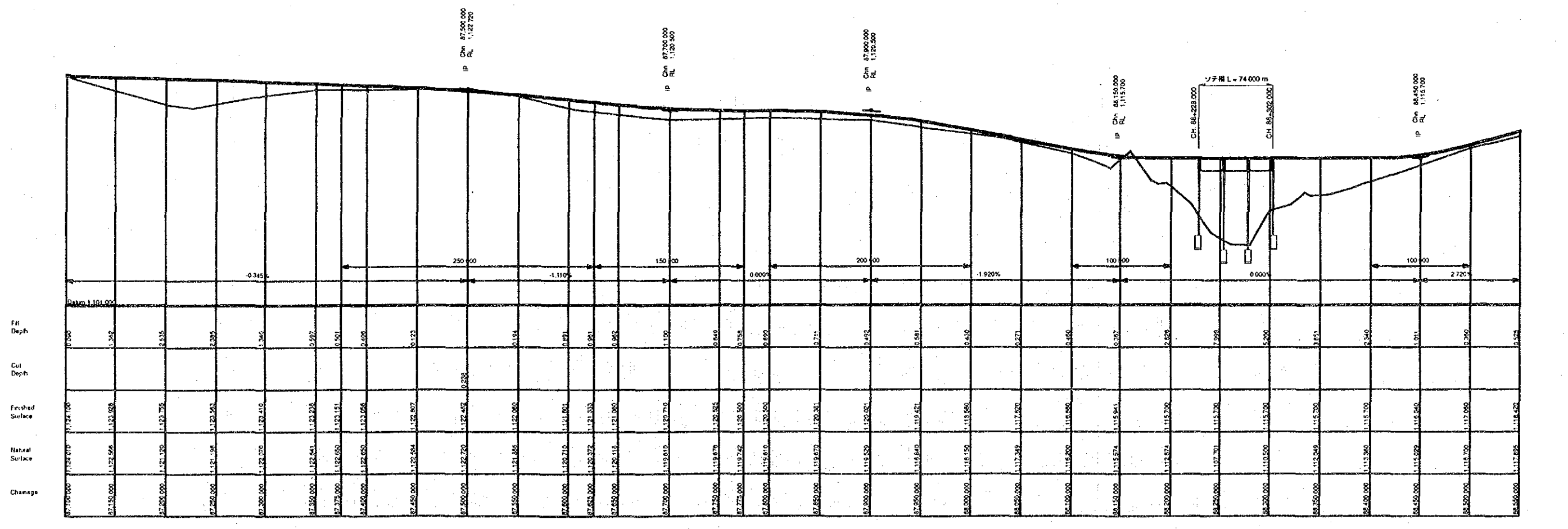




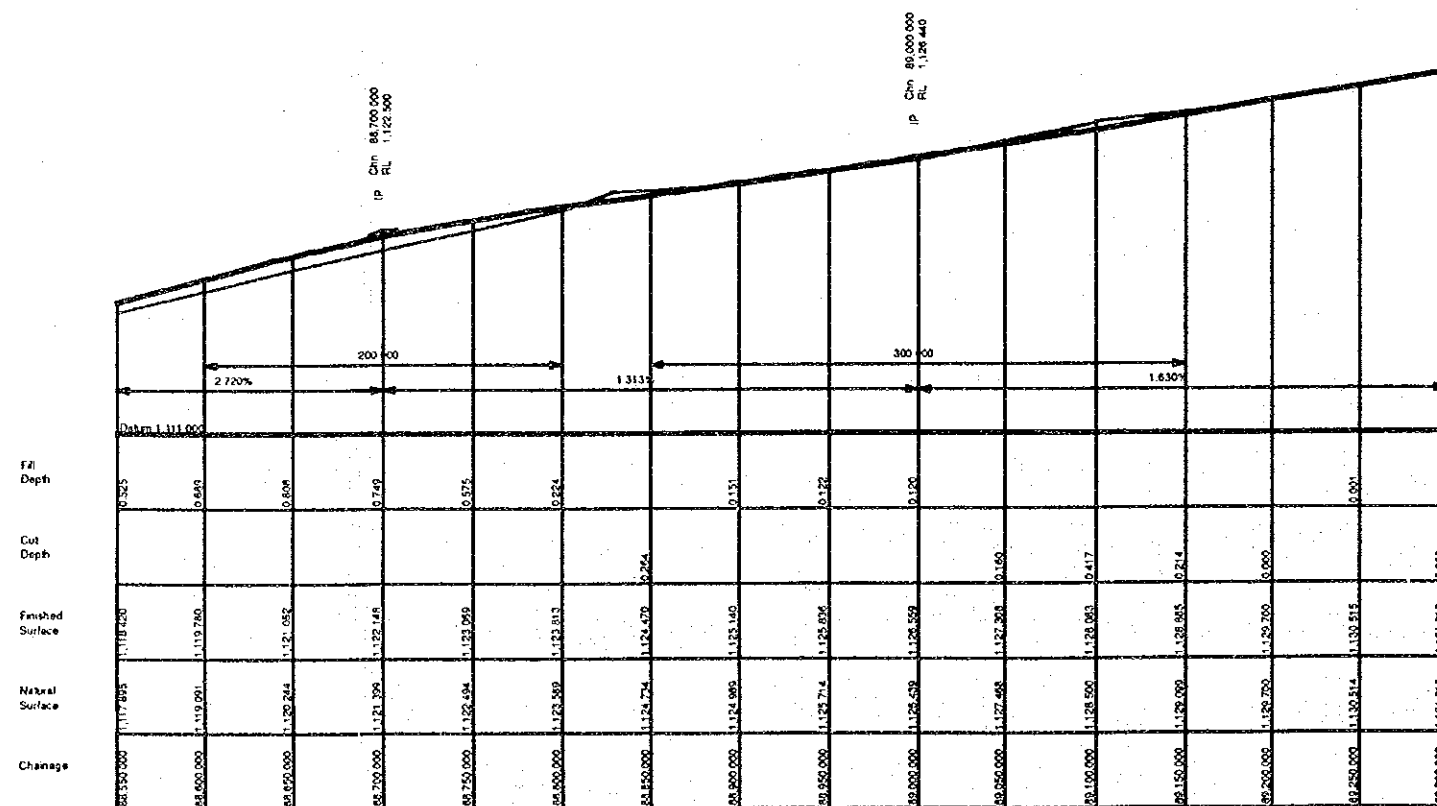


図添-5 取付道路縦断面図 (5/12)

ソテ橋取付道路 (344 号線) 1/2









図添-7 取付道路縦断面図 (7/12)

ベンベジ橋取付道路 (344号線) 1/2

